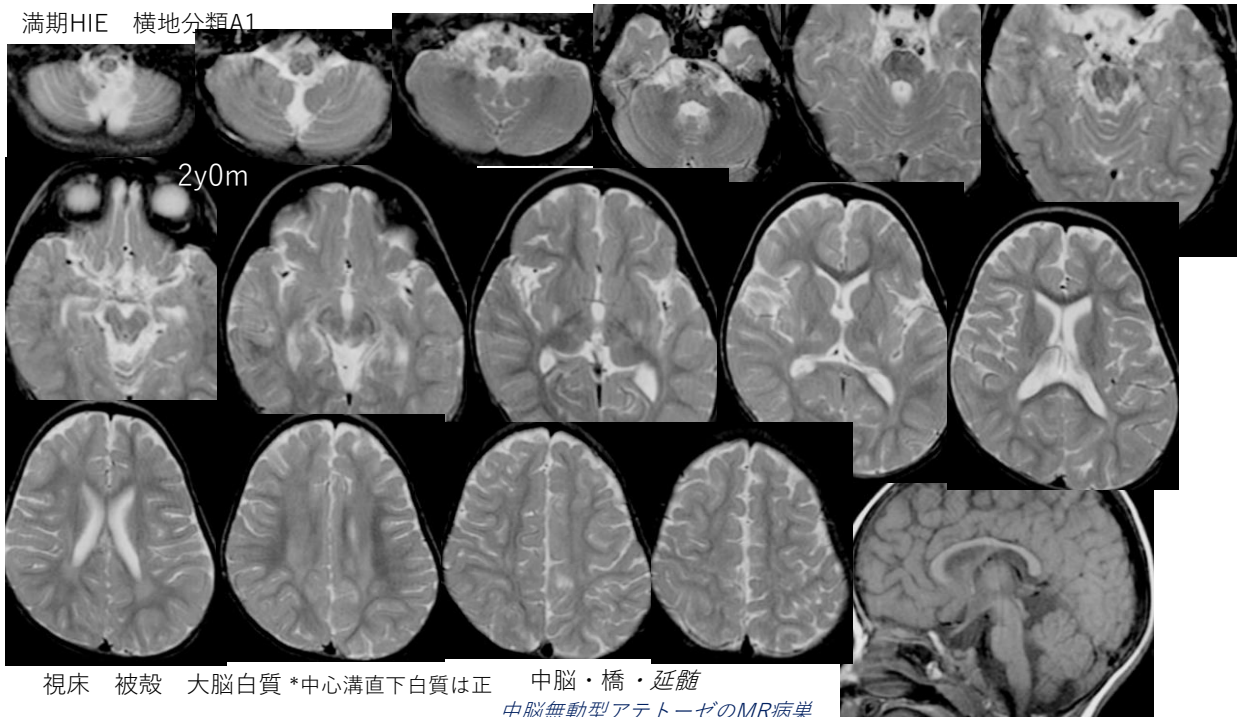


周生期脳障害の重度運動障害例

横地健治

1

満期HIE 横地分類A1



視床 被殻 大脳白質 *中心溝直下白質は正 中脳・橋・延髄
中脳無動型アテトーゼのMR病巣

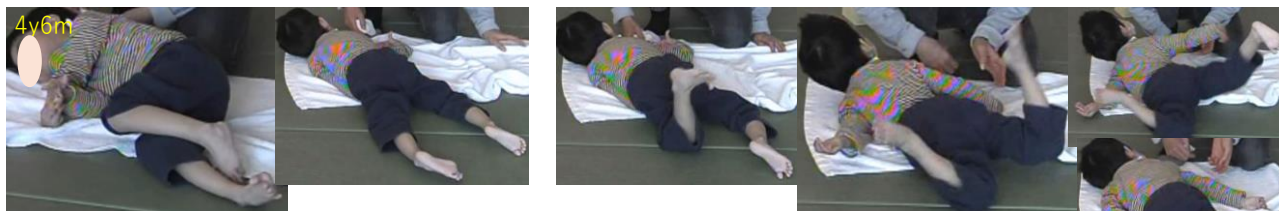
2



3



4



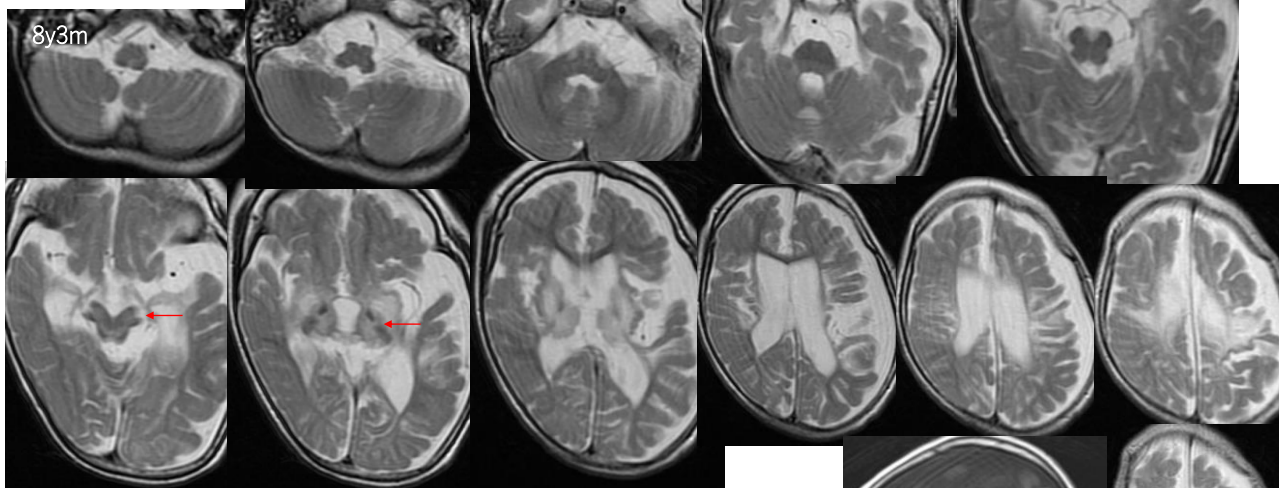
・腹臥位を好む ・速い下肢屈伸



・股屈曲過活動 ・股伸展荷重制限 ・共収縮制御障害 ・中脳性運動発現障害

5

満期HIE 横地分類A1 発作的多呼吸あり



延髄 橋 中脳
小脳
視床 淡蒼球・被殻・尾状核
大脳白質
大脳 中心溝部 内側部 島部 海馬

内包後脚・大脳脚の最強病変部は
P.M.:運動前野線維 である
皮質脊髄路の侵襲は軽い

6



- ・股屈曲 ・股外旋 ・共同運動 *股伸展域は広い (右はfull)
- ・腕は前に出ず、肩回旋 ・頸後屈

- ・腹臥位で股屈曲強
- *膝荷重で瞬発的股屈曲



- ・股屈曲過活動 ・股伸展荷重制限 ・分離運動制限
- ・共収縮制御障害 ・中脳性運動発現障害



7



- ・股膝屈曲が減り、伸展へ
- *左は伸展不完全から完全に転換
- ・頸体幹伸展へ

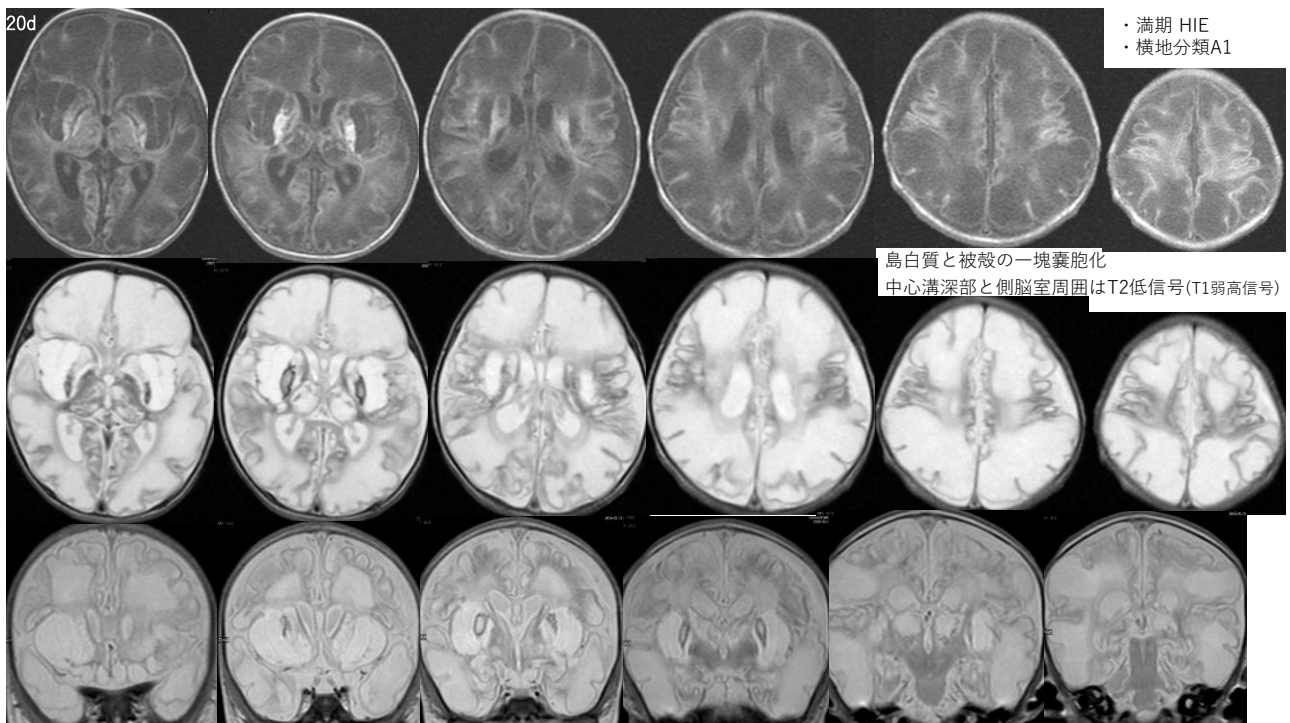
- 股伸展荷重制限の下肢体幹伸展常時収縮状態の増強



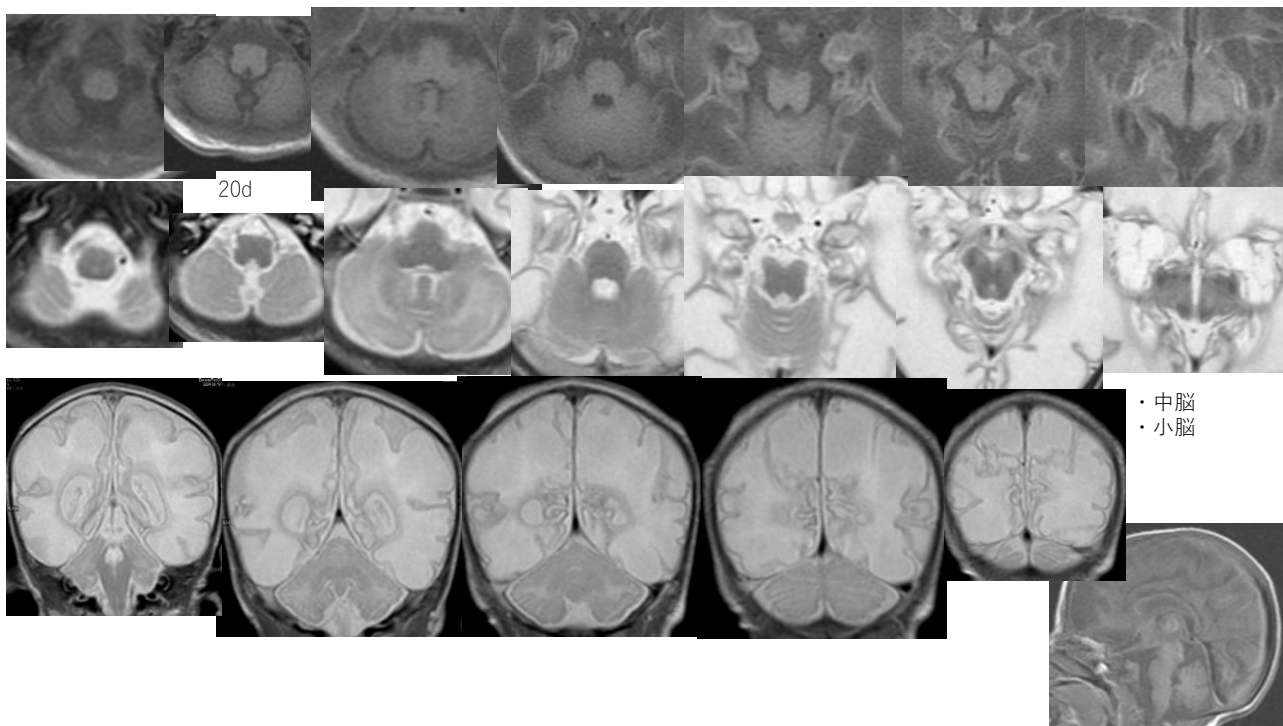
8



9



10



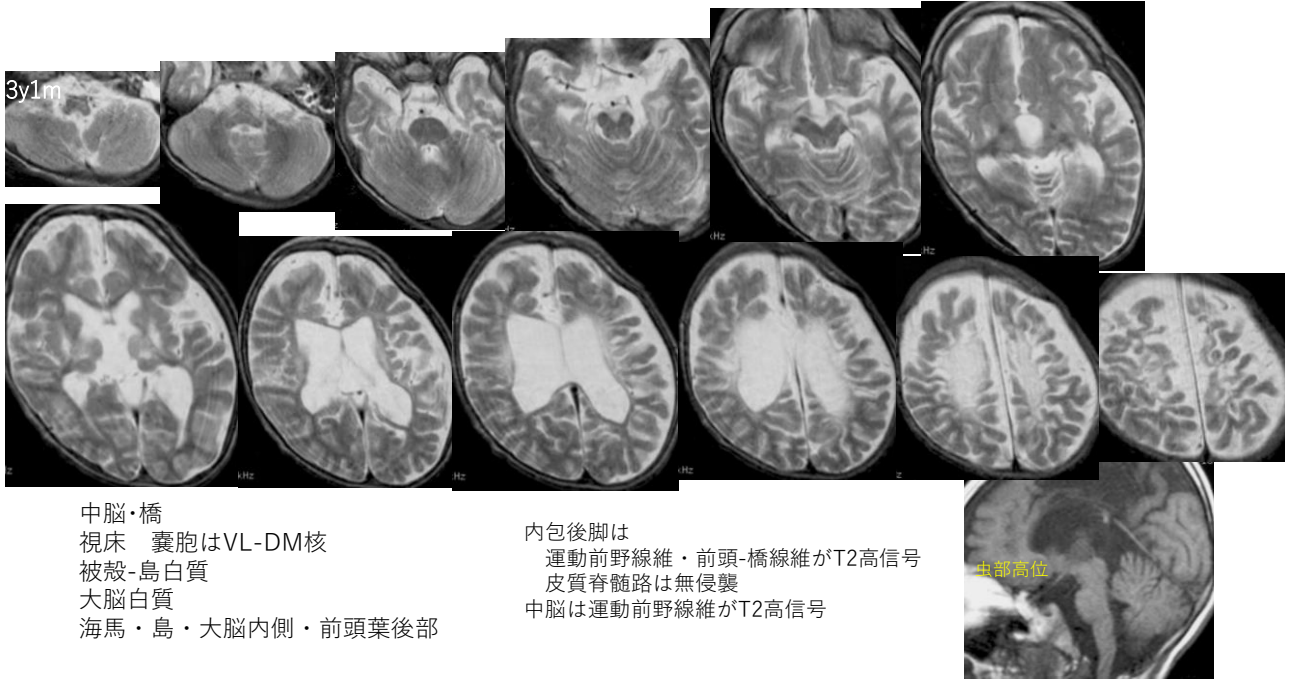
11



- ・もともと下肢無動
*股伸展荷重制限・中脳性運動発現障害が重度 *股屈曲過活動・分離運動制限もたぶんあり
- ・上肢屈曲位と伸展位の共存
*股屈曲過活動・股伸展荷重制限・中脳性運動発現障害・分離運動制限の常時筋収縮状態と共収縮制御障害による

12

満期HIE 横地分類A1



13

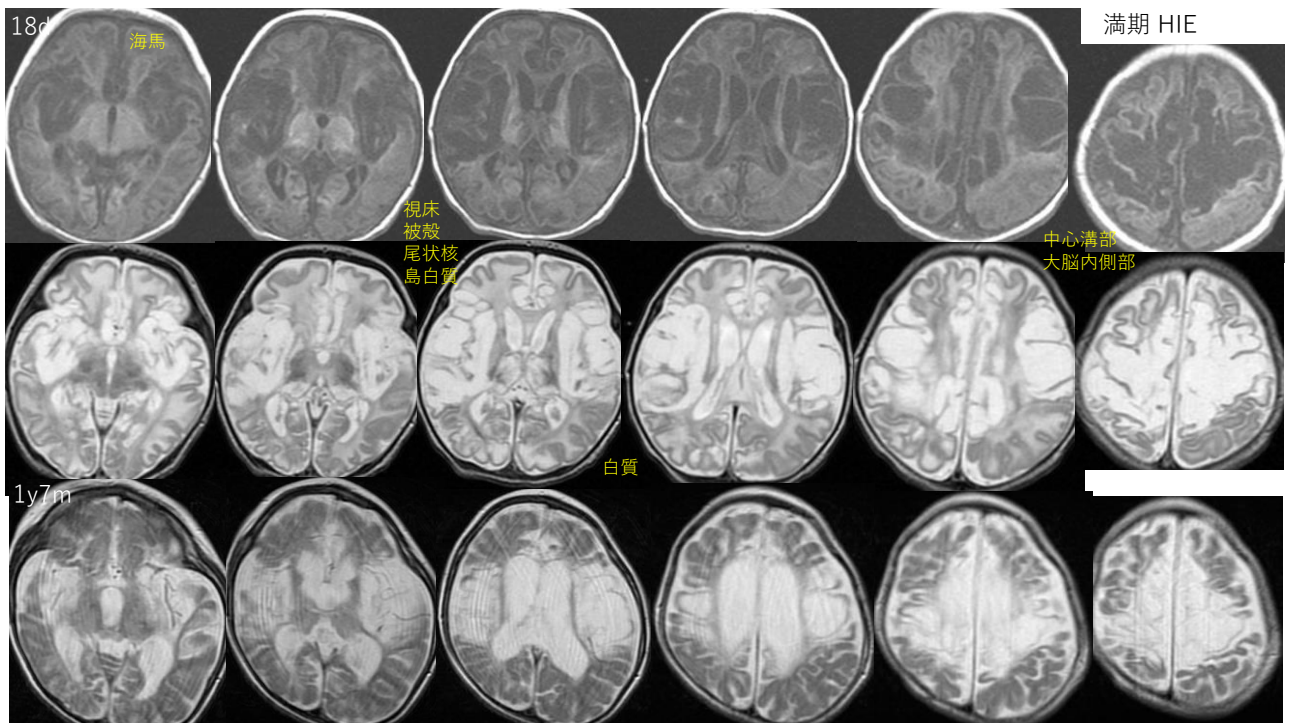


14

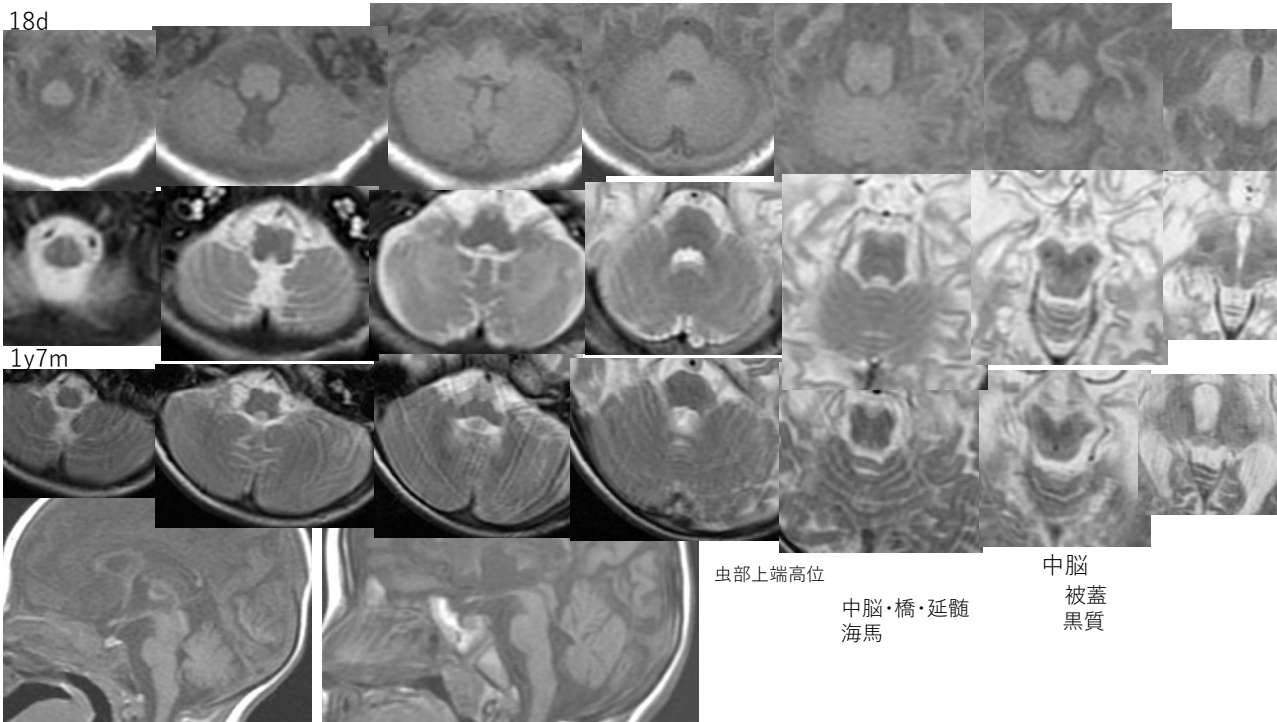


- ・股膝伸展位 *股は軽度屈曲位 *足は底屈位
*股伸展荷重制限・中脳性運動発現障害・分離運動制限による伸展常時筋収縮状態優勢の共収縮
- ・頸体幹伸展の増強
*股伸展荷重制限の伸展常時筋収縮状態優勢
- ・上肢伸展位 *手は掌屈位
*股伸展荷重制限・中脳性運動発現障害・分離運動制限・股屈曲過活動の常時筋収縮状態と共収縮制御障害による

15



16



17



18



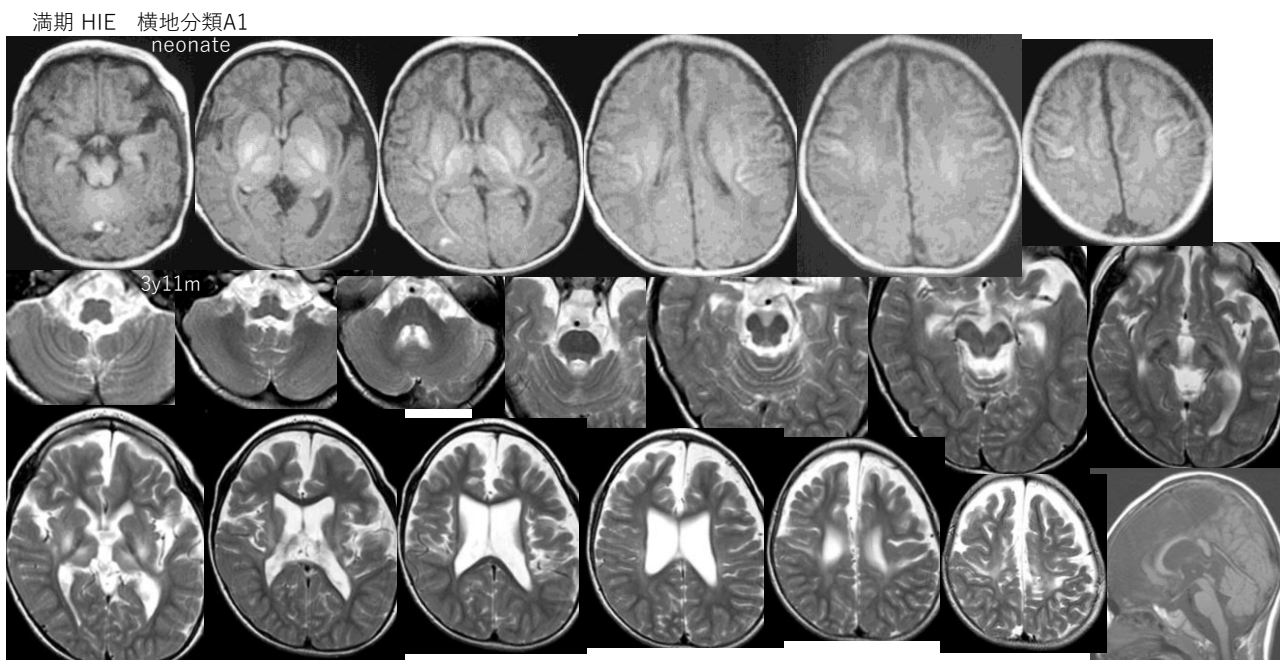
・下肢伸展から屈曲へ

・股膝屈曲へ
・右足は内反
左足は底屈内反

- ・股膝屈曲位 *足は底屈位・内反位
*股屈曲過活動・股伸展荷重制限・中脳性運動発現障害・分離運動制限による常時筋収縮状態優勢の共収縮
- ・上肢屈曲位が優勢
*股屈曲過活動・股伸展荷重制限・中脳性運動発現障害・分離運動制限の常時筋収縮状態と共収縮制御障害による

股屈曲過活動の晩期優勢化

19



・中脳・視床・被殻・大脳白質 *中心溝深部あり

・小脳・大脳皮質

室頂高位
虫部高位

20



21



22



股屈曲過活動の晩期優勢化

23

まとめ

- ・従来、重度四肢機能障害を持つものは痙性四肢麻痺とされていた
- ・この症候は、股屈曲過活動・股伸展荷重制限・分離運動制限・共収縮制御障害・中脳性運動発現障害の合算として理解できる
- ・視床・被殻・大脳白質病変の重度例では、たいてい中脳性運動発現障害を持つ
*中脳性運動発現障害は、屈曲常時筋収縮状態の脱力、あわせ伸展運動域の拡大としてみえる
- ・外部型脳低血流障害(境界域梗塞)の症候は、股屈曲過活動・股伸展荷重制限・分離運動制限の合算である

24